

## 家庭教育力の回復を目指す 家庭読書の実践

### プロフィール

#### 地域

箕輪町は、南アルプスと中央アルプスに抱かれた長野県伊那谷の北部に位置する町で、人口2万6千人の田園工業都市として発展している。

#### 学校

箕輪北小学校は、児童数426名、学級数15学級、教職員数34名で、「あいさつ・読書・学びあい」を合言葉に教育活動を送っている。

#### PTA

会員327名、庶務部・教養部・施設部・保健厚生部・校外指導部・父母委員会で構成。「もろともに」の精神で、部会相互の連携をとりながら、学校教育活動に協力している。

### 1 はじめに

箕輪北小学校は、昭和二十六年に中部小学校の分校として開校し、その後昭和二十八年に『中箕輪北小学校』として独立開校したのが始まり。それは、地域の方々の熱い思い・熱い願いによって実現したものだと言われている。そしてその思いは、現在にも引き継がれている。

北小では、こうした歴史的な経緯や人々の思いに応えていくために、学校教育目標が

故郷の大地をふみしめ、ひびき合い支え合いながら

自分らしい輝きを発して生きる子ども

— もろともに —

にすえられている。

この中にある『もろともに』という言葉。これは、PTA会報や親子文集の名前にもなっている。この『みんな一緒に』という精神を生かして、地域の方々・学校の先生方、そして保護者みんなの手を携えて、さらに子どもたち一人ひとりが輝く活気あふれる学校となれるようにと願っている。

### 2 活動のねらい

#### 家庭教育力の回復を目指す家庭読書の実践

本年度のPTA活動の主なねらいを『親子で本に親し

もう』とした。それは、昨年度の学校評価において、「学校ではよく読書をしているが、家庭ではあまり本を読んでいる」という、子どもたちの姿が学校からのお便りで明らかになった。

学校と家庭における、この『ずれ』はいったいどこから生じてきているのだろうか。

子どもたちの家庭における様子を見てみると、各種ゲーム機器の発達・興味を引くテレビ番組・DVDの普及などにより、読書している姿をあまり見かけない。

一方学校では朝読書が日課になり、先生方やボランティアの方々による読み聞かせも定着してきている。その結果、本に読み浸る楽しさを感じ始めている子ども達の姿が見られるようになっていく。

OECDのPIISA調査によると、読解力や数学・科学リテラシーが年々低下している日本に対して、毎晩家庭で読み聞かせをするのが当たり前になっているフィンランドは、毎回高い結果を残しているようである。このことからみても、『家庭読書の重要性』は明らかなことである。

こうした情勢や学校からのお便りによって、PTA会長が中心となり、PTAでも家庭読書に取り組んでいく方向がうたがわれた。読書に親しむことで本を読む楽しさを子どもたちに味わってもらおうとともに、長い文章を苦にせず

19年度学校評価 【読書に関して】	
A	:よくできた
B	:おおむねできた
C	:あまりできなかった
D	:できなかつた
保護者	
A+B	…69%
先生	
A+B	…100%

読み取る力をつけたり、親子の結びつきをさらに深めてもらったりすることを願ったのである。さらにそのことを、年度末のPTA総会でも話題とした。

### 3 活動の概要

このような昨年度からの引継ぎを受け、本年度は「PTA全体で『親子で本に親しもう』を重点に活動していく」ということになった。

#### (1) PTA全体で

子どもたちにもっと物語の本を読んでもらうためには、図書館の本の充実をしなければならぬと考えた。そのためにはお金が必要になるので、地域の方に協力をしていただき、七月十二日にビール瓶アルミ缶回収を行った。その収益金によって図書館の本を購入した。

#### (2) 教養部講演会の実施

「今が大事！ 読んでもらってこんなに幸せ」

PTA教養部では、読書の大切さを保護者の方々にも知らしめるために、PTA講演会を行い、I市の図書館館長のS先生をお招きした。

講演では読み聞かせをしてもらっているときの感情の変化や、テレビを見たときの脳の影響など、テレビやゲームの時間を少なくし、読書をする大切さを話していただいた。また、読み聞かせをする際にどんな本を読んだらいいのか、多数の本を紹介していただいた。



PTA 教養部主催の講演会

保護者の方からは、  
「絵本や童話など、質のよいものを選ばなければならぬ。親がしっかりとし目をもつて本を選んでいきたい。」  
「テレビやゲームを大人の都合で見せてしまっていることを反省しました。読み聞かせや子どもとの会話をたくさんでき

るようにしたいと思いました。」  
等の感想をたくさんいただいた。  
家庭で読書をする大切さを、講演会を通して学ぶことができた。

### (3) 家庭読書の計画と実施

授業参観後の学級懇談会や父母委員会で読書に関する話し合いをしたところ、学年が上がるにつれ、習い事や社会体育で忙しく、読書をする環境を作ることができていない実態が明らかになった。(四・五月)

そこで、子どもたちの家庭生活を振り返る必要性を感じた父母委員会で「生活記録調査」をすることになった。

(七月)

夏休み中、回収した調査用紙を各学年の父母委員が集計

をし、学年の家庭学習読書・テレビなど時間の平均値を出したり、曜日による生活時間の傾向を調べたりした。(左記参照)

低学年は保護者が、高学年は児童が記入したものを集計  
7月14日(月)～7月20日(日)の生活時間記録のまとめ

#### 「各学年の平均時間」

時間(分)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
学習	27	30	54	36	47	22
読書	12	15	32	12	13	8
テレビ	48	47	103	44	81	64
ゲーム	13	9	46	10	17	6
インターネット	0	0.6	0	13	4	4

その結果、左記のような理由により、家庭読書を土曜日に設定することにした。(九月)

- 月曜日～金曜日は、家庭学習をする時間が決まっているので、そのリズムをくずさないようにしたい。
- 週末は学習時間が減って、テレビの時間が増えるので、読書の時間にする。

そして、具体的なやり方としては

- 土曜日 テレビを消して、二十分間(学校の朝読書と同じ二十分間を目安)親子(家族全員)で読書に浸る時間をつくって行う。
- 月曜日～金曜日に読書や読み聞かせが定着している家庭は、継続する。

とした。

## 4 活動の成果と今後の課題

保護者の方からの感想より

- ・本を読むことが苦手なのですが、学校で読書の日を決めてもらってありがたいです。短い本を最後まで声に出して読む姿がとてもいいなあと思いました。少しずつ



ふきのとうの会の方の読み聞かせを聞く6年生

- つでも本に触れる時間が増えるとうれしいです。
- ・普段忙しくてあまり本を読んでもあげられませんが、「決められているから読まない」と思うと、できるもんだなあ、と思いました。子どもも前より本に興味が出てきたように思います。
- ・本を親子一緒に読むことで、読書の楽しさを改めて感じたばかりでなく、『子どもと同じ時を過ごしているんだな』という幸せを感じたり、その本の内容で親子

の会話が盛り上がりつつありました。

家庭読書カードを配って、月ごとの記録をしていただくようにお願いをしたところ、このような感想を多くいただいている。本を読むことの楽しさとともに、薄れかけてきている親子のふれあいや会話も、家庭読書をきっかけとしてできていることがわかった。

### ふきのとうの会発足

保護者お二人の方が、これまで記してきたような学校や家庭における読書の盛り上がりを受けて、

「保護者として、地域の一員として、子どもたちに何かをしてあげたい。その一つとして、子どもたちに本の楽しさを伝え、好きになってもらいたい。そこで、北小のみの読み聞かせボランティアの会をつくりませんか。」

と校長先生のところに相談にうかがった。校長先生はその考えに賛同され、そしてこの地が『ふきはらの里』と呼ばれていることにちなみ、『ふきのとうの会』と名づけて、校長室だよりでメンバーの募集をして下さった。

八月の発足時には九人だったが、次第に口コミで活動の様子が広まり、保護者ばかりでなく地域の方々もメンバーに加わってくださっている。保護者が読み聞かせる本は絵本が中心だが、地域の方々が読んで下さる本は、『早太郎』など、昔話や地域に伝わる民話で、子どもたちは初めて聞くお話に、ふきのとうの会の方の読み聞かせを毎回楽しみにしている。

課題としては、盛り上がりつつある家庭読書の活動を継

続していくために、また、より多くの家庭が読書の環境を整えていくために、事務局を設置したり、地域や先生方と保護者がより連携を密にとったりしていく必要を感じている。

### 展望

学校評価の結果から、学校に比べ家庭での読書時間が少ないことが判明。このためPTAが「生活記録調査」を実施、子どもの生活時間を把握した上で、土曜日を家庭読書の日に指定し、親子で二十分間の家庭読書を奨励している。「家庭読書カード」で実績もフォロー。こうした活動を通して、地域の人々も加えて「ふきのとうの会」が結成され、保護者による読み聞かせが広がっている。あわせて、ビール瓶・アルミ缶の回収による図書館本の購入支援も行っている。課題に応じた目標の設定、それに即した活動の集中的な展開がすばらしい。